

第1回こども文化科学館展示リニューアル検討委員会 議事要旨

1 委員会名称

広島市こども文化科学館展示リニューアル検討委員会

2 開催日時

令和4年10月21日 10時～12時

3 開催場所

広島市こども文化科学館 2階会議室

4 出席委員等

(1) 委員（◎は委員長）

◎ 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授	磯崎 哲夫
大阪市立科学館 副館長（兼）総務企画課長	吉岡 克己
一般社団法人広島県発明協会 常務理事・事務局長	熊野 弘子
広島市立城山中学校長（広島市中学校理科部会長）	原田 忠則
広島市立八幡東小学校長（広島市小学校理科部会長）	久保田 祐徳
広島市地域活動連絡協議会（母親クラブ）	瀬戸口 ひとみ

(2) 事務局

広島市文化振興課

5 議事

(1) 委員長選任

(2) 意見交換等

- ・ 事務局説明
- ・ 意見交換

6 委員会資料名

- ・ 議事次第（資料1）
- ・ 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想策定に関する資料 本編（資料2）
- ・ 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想策定に関する資料 資料編（資料3）
- ・ 別冊 アンケート集計（資料4）

7 発言要旨

(1) 事務局説明に対する質疑

【委員】博物館法の改正により、博物館の文化観光への貢献が求められているが、本館は広島市民が対象の施設なのか。

【事務局】基本的には広島市民をメインターゲットと想定しているが、観光資源としても活

用したい。平和公園に近いこともあり、修学旅行等で市外からの来館もある。

【委員】この規模で累計 50 万人来館しているのはすごいことだと思う。無料施設だが、来館者数のカウントはどのようにしているか。

【事務局】玄関に設置されているカウンターで行っている。

【委員】どこまでがリニューアルの対象範囲か。

【事務局】耐震工事と長寿命化改修工事に併せて展示をリニューアルするが、平成 28 年度に更新したプラネタリウムを除き全ての展示がリニューアルの対象である。

【委員】建物全体が薄暗いことは解消できるか。

【事務局】新たに開口部を設けることは難しいが、照明設備を新しくしたり明装工事を行うことで雰囲気を変えることは可能。

【委員】川が近く科学館の周辺の環境も魅力的だが、屋外と一体化した展示になるとよいのではないか。

【事務局】ソフト事業で対応していきたい。

【委員】こども図書館との連携が必要だと思う。

【委員】今回はハードを考える場だがソフト事業を見越して考える必要がある。

(2) 展示リニューアルの方向性（たたき台）についての意見交換

【委員】

- ・中学生でも楽しめて学習に繋がる体験ができるとよい。例えば自転車発電やこれから発展する技術など。
- ・小学生には、体を動かせる体験展示は必須である。
- ・A I ・V R など見た目にも「すごい」と思えるものを入れることは避けて通れないのではないか。
- ・一見地味でも基礎原理を見せる展示は学習に役立つ、例えば動滑車など。奥深い展示になるとよい。
- ・年齢の小さい子供は見て楽しむ・遊べるものがよい。一方、保護者は子供の写真を撮りたいので例えば白衣を着せるなど撮影も楽しめる体験があるとよいのではないか。
- ・地域の企業においては、自社の技術を発信できる場を求めている。子供達がそれを見ることで広島を知り、地元に残ることに繋がってほしい。
- ・広島らしさが今回の展示リニューアルのポイントになる。郷土愛・キャリア教育だけでなく広島市域外の人へのアピールに繋がる。
- ・子供は人への憧れがある。科学への憧れを作り出すために、広島で育った人・企業・研究の歴史的背景まで伝えられるとよい。
- ・中学生の具体的な目標・職業選択のきっかけになるような展示がよい。地元企業の技術に触れられる場のネットワークとなる施設になると嬉しい。
- ・「最先端」は、どんどん古くなるため常設にせず入替可能な展示にするなど、リフレッシュする仕組みを考えなければならない。
- ・日本の理科教育はスパイラル構造になっているため、原理原則の解説をどこまで・どのように展開するかが課題である。

- ・最先端技術の中にも理科教育の基礎内容に繋がるものがある。
- ・単にハンズオンで終わりではなく、「わからないことを図書館で調べる」など、他の活動に広がるような体験展示がよいのではないかな。
- ・市内の他の公共博物館や企業博物館の「情報発信源」となる科学館になれば、他所にはない新しい取組になると思う。
- ・広島において大都市の科学館と同じ規模でボランティアを集めるのは難しい。今いるスタッフで可能な範囲で対応するべきである。ただし、解説がわかりにくいという意見には何かしらの方法で対応すべきである。
- ・子供が保護者や先生以外の大人と話す機会は少ない。小規模でも子供の来館者と科学館職員（大人）とのコミュニケーションがとれる機会は作った方がよい。
- ・「変わらない原理原則」、「可変的な最先端技術」、「人との関わり（コミュニケーション）」のバランスが重要である。
- ・あえて中学生ゾーンがあれば、小学生が成長してまた来るきっかけになるのではないかな。
- ・力学などの物理分野はわかりやすく、学校の先生も説明しやすい。
- ・スーパーサイエンスミュージアムの卒業生をボランティアとして呼べないか。ボランティアの活動方法・システムにも工夫が必要である。
- ・施設規模にあったコンセプトが必要だと思っている。広島市には様々なテーマの文化施設が点在している。科学館は子供の科学の入口を担う施設である。
- ・どこの科学館も大人を呼び込むのに苦労している。デザイン的にも子供が背伸びできるような上質な空間づくりが必要である。可能な限り「本物」を見せてほしい。
- ・保護者も気になって足を止めるような装置が欲しい。複雑でなくても、シンプルな手作り装置でも保護者の方が興味を示すことがある。
- ・大人が興味を示さないものは子供も興味を示さない。親子で楽しめる装置がよい。
- ・母親をターゲットにしている館もある。
- ・保護者が休日に繰り返し科学館に連れて行きたくなるような展示・システムが必要である。
- ・リピーターを増やすために、学校で告知する方法は有効である。
- ・展示リニューアルの方向性は、概ねこれでよいかな。 → 異議なし